

第42回「地方の時代」映像祭2022 概要

主催：NHK、日本民間放送連盟、日本ケーブルテレビ連盟、
吹田市、関西大学

2022年11月12日(土)～18日(金)

関西大学千里山キャンパス

(第三学舎ソシオAVホール／100周年記念会館)

- 11月12日(土) (第三学舎ソシオ AV 大ホール)
 - <第1部>
 - 13:00～ 「地方の時代」映像祭コンクール贈賞式
 - 14:20～ 記念講演 沢木 耕太郎さん(ノンフィクション作家)
『「時代」を超える』
 - <第2部>
 - 15:30～ グランプリ受賞作品上映
 - 16:40～ シンポジウム 『地域からは日本と世界の今が見えてくる』

- 11月13日(日) (100周年記念会館)
 - 10:00～ ワークショップ① 『「高校生・大学生の映像制作」が目指すもの』
 - 13:00～ ワークショップ② 『どうなる・どうする地域放送
～ローカル放送局・ケーブルテレビ局の未来戦略～』
 - 11:00～ グランプリ作品上映
受賞作品上映

- 11月14日(月)～18日(金) (100周年記念会館)
 - 11:00～18:00 コンクール参加作品上映
(受賞作品及び一次審査通過以上の作品を上映します)

- 12月3日(土) (関西大学東京センター)
 - 13:30～17:00 「グランプリ受賞作品を語る会」

11月12日(土) 贈賞式は、〈第1部〉〈第2部〉に分けて行います。

今年もコロナ対策のため入場定員を限定していますので、入場を希望する方は事前に「地方の時代」映像祭ホームページから申し込みフォームにしたがってお申し込みください。(フォーム入力が困難な場合は電話でも受け付けます)。申し込み多数の場合は抽選となります。

〈第1部〉

贈賞式 13:00~14:20 (第三学舎ソシオAV 大ホール)

今年の映像祭コンクールには4部門あわせて273作品の応募がありました。これら273作品の中から、優秀作品32作品を表彰します。贈賞は「高校生(中学生)部門」「市民・学生・自治体部門」「ケーブルテレビ部門」「放送局部門」の順に、「優秀賞」「選奨」「奨励賞」等を発表、最後に「グランプリ」(賞金100万円)が発表されます。

記念講演 14:20~15:30

『「時代」を超える』 沢木 耕太郎さん (ノンフィクション作家)

時代と向き合い、人間を見つめ続けてきたノンフィクション作家沢木耕太郎さん。「今を伝える全国の制作者にエールを」とお願いしたところ送られてきたのは、「『時代』を超える」というタイトルでした。

沢木さんは「地方の時代」というキーワードを提唱した長洲一二元横浜国大教授のゼミの一期生。その後、ノンフィクション作家としてゆるぎない業績を残してきました。最新作は9年ぶりに世に問うた長編ノンフィクション「天路の旅人」。大戦末期の中国で日本の「密偵」として西域を旅した西川一三は、戦争が終わってもラマ教の修行僧に扮してチベット、ブータン、インド、ネパールなど7度ヒマラヤを越える旅を続けます。西川は何故、何を目指して旅を続けたのか。そして、沢木さんが我々におくる「時代を超える」というメッセージは何を意味するのでしょうか。

〈第2部〉

グランプリ作品上映 15:30~16:30

シンポジウム 16:40~18:30

「地域からは、日本、世界のいまが見えてくる」

ロシアによるウクライナ侵攻は、国際社会が二度の世界大戦を教訓に、合理的な対話による軍事的緊張回避を第一義とする国際秩序を脅かすこととなりました。ウクライナから脱出をせざるを得なくなった人々の中には、「避難民」(≠難民)として日本に身を寄せた人たちも数多くいます。こうした情勢を受け日本の各地においても戦争が身近なものとなる中、一部で、台湾有事への備えを主張する声が高まっています。復帰50年を迎えた沖縄への軍備増強の声…その一方で、復帰後も米軍基地の過重な負担が強られる状況は続いており、辺野古基地建設問題では、沖縄と本土との間に大きな認識のギャップが生まれています。

今回の「地方の時代」映像祭シンポジウムでは、紛争、暴力、難民、貧困、差別といった人類が直面する社会的問題を、地に足を着けてミクロの視点から問いかける放送ジャーナリスト、ディレクターたちにご登壇いただき、その活動や作品を紹介しながら、人類共通の課題に対し、メディアには何ができるのか考えます。

登壇者／音 好宏(上智大学教授) (モデレーター)
渡辺 考(NHK沖縄放送局)、有本 整(CBC テレビ)、奥田雅治(毎日放送)
高橋 賢(山口朝日放送)、堀川雅子(読売テレビ)

11月13日(金) この日から会場は100周年記念会館です。
3つの会場でワークショップや作品上映を行いません。事前申し込みは不要です。

ワークショップ ① 10:00～12:30 (100周年記念会館ホールB)

「高校生(中学生)・大学生の映像制作が目指すもの」

今年の映像祭にも74の高校生(中学生)・大学生の映像作品が寄せられました。いずれも若い感性にあふれた作品であると同時に、戦争や日本社会の課題にまっすぐに向き合った作品です。ワークショップでは、受賞作を題材にしながら、参加者相互で意見交換を行うとともに、高校(中学生)・大学で映像制作を学ぶことの意味について考えます。

登壇者／齊藤潤一(関西大学社会学部教授) (モデレーター)
藤田貴久(朝日放送テレビ)、堀川雅子(読売テレビ)ほか
受賞作品制作者・指導教官が自由に語り合います。

ワークショップ ② 13:00～15:00 (100周年記念会館ホールB)

**「どうなる・どうする地域放送
～ローカル放送局・ケーブルテレビ局の未来戦略～」**

若者のテレビ離れが言われ、地域の人口減少が進む中、地方放送局・ケーブルテレビ局の将来ビジョンが問われています。総務省の検討会からは、放送局の統合を容易にしたり、各局が放送設備を共用したりしてはどうかとの提言も出ています。しかし、地域に根差して、ユニークな実践を重ねる局は少なくありません。そうした局のリーダーに集まっていただき、地方のジャーナリズムやエンターテインメントを進化させ、インターネットを活用して、地方局を維持・強化していく道を議論したいと考えています。

論点としては、各局それぞれの実践のご報告をメインとした上で、ネットへの向き合い方、地域での連携、総務省「デジタル時代における放送制度の在り方に関する検討会」の取りまとめに関する考え方(マスメディア集中排除原則緩和、複数地域での番組同一化、ネットワークインフラの共同利用・ブロードバンド代替)などを想定しています。

モデレーター／原 真(共同通信社編集委員)
パネリスト／大迫 純平(九州朝日放送取締役)
二宮 以紀(南海放送ビジネス戦略局次長)
丸山 康熙((株)Goolight 社長)

グランプリ作品上映 11:00～12:00 (100周年記念会館第1特別会議室)

作品上映 10:00～18:00 (100周年記念会館の3会場で受賞作品を中心に作品上映を行ないます。上映スケジュールは「地方の時代」映像祭 HP で確認できます。)

11月14日(月)～18日(金)

作品上映 11月14日(月)～18日(金)には、グランプリ作品など受賞作品を中心に、一次審査通過以上の参加作品を上映します。会場は100周年記念会館の3会場です。上映スケジュールをお確かめの上ご来場ください。

12月3日(土)

グランプリ作品を制作者と語る会 13:00～ 関西大学東京センター

毎年恒例の「グランプリ作品東京上映会」を12月3日(土)に予定しています。

制作者や関係者をお呼びし、討論します。

定員100名、参加希望者は関西大学東京センターのHPにアクセスし、参加申し込みフォームから登録してください。申し込みが定員に達すると受付は締め切られます。